

自分や日本、フィジーのよい所を知ろう！伝えよう！

氏名：箸本 淳也

学校名：石川県立盲学校

担当教科：保健体育

実践教科：総合的な学習の時間、作業学習

時間数：26 時間

対象学年：高等部 2 年

人数：1 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

外国の文化や生活習慣を理解し、興味関心を持つと共に、自国の良さを知ったり自分を振り返ったりして、その成果を学習や生活の中で生かす。

【2】 単元の評価	(ア) 関心・意欲・態度	フィジーの文化や生活習慣について関心を持ち、積極的に調べたり、日本や自分のことを伝えたりする。
	(イ) 思考・判断・表現	自分や日本、フィジーの良い所を考え、発表する。
	(ウ) 技能	相手のことを意識し、より丁寧に紙すき製品を作ったり、送ったりする。
	(エ) 知識・理解	世界には様々な人々が生活しており、色々な文化や生活習慣があることを知る。

【3】

単元設定の理由

- ✓ 生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

(1) 生徒観

本生徒は、弱視・知的障害を併せ有する教育課程で学習している。教師と一対一の授業が多く、コミュニケーションを取ることが出来る同年代の友人が少ない。また、経験不足や周囲の大人への依存度の高さから、自分から言動を起こすことには消極的な傾向が強く、緊張すると言葉が詰まることが多い。生徒は、中学部での総合的な学習の時間で、他国の国際交流員との交流や他の学級の生徒と共に国際理解教育について共同学習を行った経験がある。決まった挨拶をすることは出来たが、主体的に自分のことを伝えたり、関わろうとしたりする姿は少なかった。高等部に進学してから、自分の思いを弁論大会で伝えたり、学習の成果を壁新聞やパワーポイントで発表したりする表現活動の経験が増えてきた。今後、将来の自立と社会参加に繋げていくには自分のことを相手に的確に伝えたり、相手のことを受け止めたりするコミュニケーション力の向上が必要だと考える。

(2) 題材観

国際理解教育は、子どもたちが自国とは異なる様々な文化や生活習慣、伝統に触れ、その違いに気づき、異文化を認めるとともに、自国文化についても誇りを持ち、世界各国の人々と共生していこうとする態度を養うことを目的としている。今回、フィジーの文化や生活習慣を理解したり、直接体験や手紙でやり取りを行ったりすることでさらに知りたいという探究心が育つと考えた。活動を通して、外国の文化や生活習慣に興味関心を持ち、他国や相手を尊重する心を育てるとともに現在の自分を振り返り、新たな課題を見つけることが期待さ

れる。また、手作りのプレゼントや手紙を送ることでさらに交流が深まると考え、紙すきの活動を取り入れた。紙すきは古紙をリサイクルすることができ、日本の文化、伝統の1つでもある。生徒は、昨年から作業学習の時間に牛乳パックのはがき作りに取り組んできており、手順を覚え、一人で製作できるようになった。自分の作ったはがきで手紙を出すことは、自信をもって取り組める意欲的な活動になると考えた。

(3) 指導観

指導にあたって、外国の文化や、生活習慣等の課題だけを取り上げるのではなく、食物や音楽、スポーツ、遊びといった生徒の興味・関心の高いテーマを取り上げ、直接五感で体感でき、主体的に取り組めるようにする。また、一対一の授業なので、生徒の思考や理解のペースに合わせるようにし、現地の子どもたちのアンケートを紹介したりすることで、他の人たちの意見を聞いたり、比較したりする場面を設定する。さらに、生徒が作った紙すき製品をはがきにして送ったり、手紙などのやり取りをしたりすることで、人との関わりを世界に広げ、現地の人たちの考えをより身近に感じ、日本や自分について再認識出来るようにする。本単元を、生徒が異なる文化や生活習慣を正しく理解し、それぞれにある個性や良さを認め合える感覚を養う機会とする。

【4】展開計画（全 26 時間）

次	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (2)	「外国に目を向けよう」	・外国の異なる文化や生活習慣、海外青年協力隊員の活躍について知る。	「世界がもし 100 人の村だったら」「僕ら地球調査隊(小冊子5種類)」 「学校に行きたい」 写真など
2 (11)	「フィジーの文化や生活習慣について調べ、発表しよう」	・フィジーの国について知る。 ・フィジーの文化や生活習慣について調べる。 ・フィジーの文化や生活習慣について発表する。 ・フィジーの人たちや海外青年協力隊員へのプレゼントを考える。 ・紙すきでプレゼントを製作する。	写真など 製品の材料、作業の道具など
3 本時 (5)	「自分や日本、フィジーのよい所を見つけよう」	・フィジーの文化や生活習慣を体感する。 ・フィジーの特別支援学校で行われていた「自分のよさに気づき、認める」授業を体験し、自分のよさを考える。 ・フィジーと日本の文化や生活習慣について、写真や動画を比較し、それぞれのよさを考え、発表する。	フィジーの生活用品や民芸品、教材、アンケート【資料2・3】、動画、写真など ワークシート【資料1】 フィジーノート【資料4】 スライド
4 (5)	「フィジーの人たちにメッセージを送ろう」	・フィジーの人たちや海外青年協力隊員からのメッセージを読み、お礼や応援メッセージを考える。 ・紙すきでお礼や応援メッセージ用のはがきを製作する。 ・フィジーの人たちや海外青年協力隊員へお礼や応援メッセージを書き、送付する。	メッセージ【資料5】、写真など 製品の材料、作業の道具など
5 (3)	「学校みんなに伝えよう」	・これまでの学習を壁新聞にまとめる。 ・これまでの学習を友だちに伝える。	壁新聞など

【5】 本時の展開

- (1) 題目 自分や日本、フィジーのよい所を見つけよう
- (2) 本時の目標 フィジーと日本の文化や生活習慣を比較し、それぞれのよさを発表する。
【思考・判断・表現】
- (3) 準備物 フィジーの衣服・お金・民芸品など、写真、動画、パソコン、付箋紙、ワークシート、
黒板用シート、フィジーの子どもたちのアンケート、フィジーノート、拡大読書器

本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (2分)	1. 始めの挨拶をする。	・「お願いします。」をはっきりと伝えるように声かけをする。	
展開① (20分)	2. 本時の目標について確認する。 3. フィジーの文化、生活習慣を振り返る。	・気付いたことや考えたことをワークシートに記録していくように促す。 ・フィジーの衣服やお金、民芸品などの実物、写真、動画を準備し、フィジーの文化や生活習慣等を五感で感じられる場の設定を行う。 ・前時まで学習したフィジーノートを確認するように声かけをする。 ・お金の図柄等は、拡大読書器で拡大してみるように声かけをする。	ワークシート【資料1】 パソコン フィジーの衣服・お金・民芸品など 写真や動画 フィジーの子どもたちのアンケート 【資料2・3】 フィジーノート 【資料4】
フィジーと日本の文化、生活習慣を3つの場面の写真や動画で比較し、それぞれのよさを考え、発表する。			
展開② (18分)	4. フィジーと日本の文化、生活習慣を比較し、それぞれのよい所を考え、発表する。 ・食事 ・スポーツ・遊び ・学校	・生徒の興味関心がある3つを選び、提示する。 ・付箋紙にキーワードを記入し、黒板のシートに分けて貼る。 ・発表の時は、「コミュニケーションの約束」を守り、はっきりと伝えるように声かけをする。 ・フィジーにも、よい所が多くあることや日本の進歩を伝える。 ・生徒の意見を尊重し、目標にそって発表できたことを確認し、褒める。	拡大読書器 黒板用シート 付箋紙
まとめ (10分)	フィジーと日本のそれぞれのよさを考え、発表できた。		
	5. 終わりの挨拶をする。	・「ありがとうございました。」をはっきりと伝えるように声かけをする。	

【授業実践の様子】

フィジーの衣服やお金、民芸品などの実物、写真、動画を触ったり、見たり、聞いたりして、フィジーの文化や生活習慣を五感で感じる。



「日本とフィジーの距離は？」

「フィジーの民芸品やお金を調べよう。」

フィジーと日本の文化、生活習慣を比較し、それぞれのよさを考え、発表する

フィジーと日本のそれぞれのよさを考え、発表しよう！



「それぞれのよさって何だろう。」



「自分のよい所見つけ」
の教材を活用し、それ
ぞれの国のよい所を記録
していった。



* 「見えにくさ」は、大型モニターや拡大読書器を活用し、カバーした。



「村の木に実っている果物は何だろう。」



「紙幣に描かれているものを調べよう。」

【6】本時の振り返り

本時は多くの授業参観者がいて、生徒は緊張している様子だった。しかし、普段の授業よりも積極的に前向きな姿で取り組んでいた。授業内容には、「フィジーと日本のよい所見つけ」を設定したが、違うことよりもお互いのよい所を見つけ、自己理解や他者理解を深めながら、生徒の興味関心や人との関わりを広げていくことを目指した。前半のフィジーの文化、生活習慣の紹介が長く、生徒の考える時間が短くなってしまった。また、気付いたことや考えたことをワークシート【資料 1】に記録していく時間が十分に取れていなかった。教師と一対一の授業だったが、お互いのよさをよく考え、発表していた。最後に「フィジーと日本のどちらがよいか？」という質問に対して、「どちらともよい。」と自信を持って答えていたことが心に残っている。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

今回の単元では、国際理解教育に加えて生徒のコミュニケーション指導にねらいをおいた。単元を通して、「話を聞く」「自分の思いを伝える」力を向上することができた。また、コミュニケーション力を高めるには、他者理解とともに自己理解が大切だと考える。異文化のフィルターを通して、日本や自分はどうか、自己理解や自分の見つけなおしを行ってきた。「自分のよい所見つけ」では、生徒は自分のよい所をなかなか挙げるができなかった。フィジーの生徒の様子や意見を聞いているうちに、表いっばいに自分のよい所を挙げるができた。自分の住む国「日本」についても同様で、日本らしい食物、物、遊び、場所などを考え、答えることができるようになった。十分な異文化、他者理解までは、生徒の実態から難しいが、自己理解とともにそれを意識するようになってきた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲について】

食物や音楽、スポーツ、遊びといった生徒の興味・関心の高いテーマに関しては、特に主体的に取り組んでいた。さらに、現地の子どもたちのアンケート【資料 2・3】を聞いたり、直接、本生徒宛にメッセージ【資料 5】や手紙をもらったりした時は、とても喜んでいて、その後の活動は、学習意欲も向上し、積極的かつ自主的に取り組むことが増えてきた。また、今回、手作りのプレゼントやはがきを送ることでさらに交流が深まると考え、紙すきの活動を取り入れた。生徒にとって、昨年からの作業学習の時間に取り組んできており、手順を覚え、一人で製作できるようになった活動である。今まで、教師から提示された手順や内容で作っていたが、今回の活動では、内容を自分から考えたり、提案したりしてきた。本生徒らしい温かいプレゼントやはがきになった。



「紙すきではがき作り」



「紙すきでメッセージカード作り」

【途上国・異文化への意識の変容について】

(授業前)

授業前、本生徒は他国や異文化について興味関心はほとんどなかった。知っている国名も数か国だけで、文化や生活習慣の違い等、知識もなかった。4年前、中学部の総合的な学習の時間で、他国の国際交流員との交流や他の学級の生徒とともに国際理解教育について共同学習を行った経験がある。当時は、決まった挨拶をすることはできたが、主体的に自分のことを伝えたり、積極的に関わろうとしたりする姿は少なかった。授業前、この時の内容を質問したが、ほとんど覚えていなかった。

(授業後)

世界には、色々な国があることやそれぞれの国に独自の文化や生活習慣があることが分かった。授業が終わってから、外国のニュースや2020年に開催される東京オリンピックやパラリンピックを話題にして話をするようになり、異文化への興味関心が広がった。授業後の感想文には、フィジーの文化や生活習慣だけではなく、フィジーのよさや日本のよさ、海外青年協力隊員が日本のよさを外国の人たちに伝え頑張っていること、リサイクルや手作りの製品の素晴らしさを知ったことなどが書かれていた。【資料6】

また、本校で行っているペットボトルキャップの回収、リサイクル運動でもその主旨を知り、積極的に取り組むようになった。途上国に対して、「自分ができること」を考えるようになってきた。



「壁新聞で学習発表会」

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>本校では教師と一対一の授業が多く、同年代の生徒がいないので、授業の中で生徒同士が学び合うことが少ない。今回、フィジーの人たちや JICA 関係者の協力を得ることができ、現地でプライマリースクールの生徒からアンケート【資料2・3】を収集したり、直接生徒とメッセージをやり取りしたりすることができた。しかしながら、その教材準備や連絡調整等は大変だった。また、本生徒は視覚に障害があり、視覚的な手がかりに難しさがあったので、モニターや拡大読書器等を活用したり、フィジーノート【資料4】などの教材の提示等、工夫したりした。</p> <p>さらに、本時の反省にもあったが、もう少し時間的に余裕をもった単元や授業構成で行えばよかった。年間の指導計画が出来てからの単元だったので、設定が難しくなってしまった。</p>
2. 改善点	<p>本校に限らず、同年代の児童生徒の直接的なやり取りは、学習意欲につながり、効果的である。そのような環境を設定するために教師自身が積極的に研修に参加し、現地の人たちとつながる必要があった。さらに、環境づくりは年間の指導計画に入れることは難しいが、出来るだけ早く行い、余裕を持った時間設定を行うとよい。</p> <p>視覚障害に関して、教材の細かい部分を観察する時には、機器の活用や教材の工夫を行った。</p>
3. 成果が出た点	<p>生徒の変容が一番の成果だった。生徒の興味関心や人との関わりの広がりは、国際理解教育のねらいだけではなく、コミュニケーション能力の向上にもつながった。まとめの時間では、壁新聞を作り、友だちや他の教師に堂々と発表することができた。</p>

<p>4. 備考 (授業者による自由記述)</p>	<p>今回、海外研修に参加し、授業を実践してみて実感したことは、教材研究、授業準備、環境づくりの大切さである。また、教師自身が国際社会に対する認識を新たにし、自己の国際感覚を磨いていかなければいけないと感じた。さらに、研修を通して「国際理解教育」「国際協力」について改めて考えさせられた。</p> <p>現地でしか得ることができない情報や磨くことができない感覚を身につけ、生徒に還元できたことがよかった。また、現地の人に限らず、JICA スタッフや海外青年協力隊員、同行したメンバーからの学びはとても貴重で、そのつながりは、これからの教育実践にもつなげていきたい。</p>
-------------------------------	--

【添付資料】

- ・ワークシート「フィジーと日本のよい所を見つけよう！」【資料 1】
- ・プライマリースクール 生徒実態アンケート（アンケート用紙【資料 2】、アンケート結果【資料 3】）
- ・フィジーノート【資料 4】
- ・ベンさんからのメッセージ【資料 5】
- ・本生徒の感想文【資料 6】

【その他使用資料】

- ・「フィジーを体感しよう」（授業用スライド（フィジー/作 箸本淳也））

【参考資料】

- ・池田香代子著「世界がもし 100 人の村だったら」（マジンハウス）
- ・「僕ら地球調査隊（「いのち、輝け！」「砂漠化する惑星」「学校に行けない世界の子どもたち その 1・その 2」「世界の食料」「世界の水問題）」（JICA 国際協力機構）